

プラスチック部品加工で 頼られる企業へ

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可
小ロット
- 量産対応

プラスチックの
精密加工職人

藤中産業株式会社



各種プラスチック加工製品例

業務内容 ニッチかつ重要な プラスチック部品の加工

創業時からプラスチックの切削加工を行い、エンジニアリングプラスチックを中心に産業機械部品分野、電子機器分野、医療機器分野、輸送機器分野に部品を供給している。

産業機械部品ではビンの搬送に使われるスターホイールや各種製造治具、検査治具を、電子機器では開発段階のテレビフレーム部品などの試作部品を、輸送機器では電車車両の振動を吸収するバネ付近にある配線の絶縁部品や広告を押さえる板を加工している。

また、ユーザーの商社が病院の医師のニーズを開いて、医療装置の品質管理に使われる水ファントムなどの製作をしている。「藤中産業」はその軸部の製造などといった医療分野のプラスチック部品にも挑戦している。

強み 40種類以上のプラスチックを 扱ってきた豊富な経験

小ロット、短納期、1個の試作から量産まで幅広い生産に対応でき、あらゆるプラスチック関連工業用部品を供給できる体制を整えている。

具体的には、40種類以上のプラスチックを取り扱い、それぞれのプラスチックに対応したノウハウを持っている。独自刃物の使用により、きめの細かい表面加工を施すことができる。また、職人とマシニングセンター（MC）での加工を組み合わせることで、同業他社と比較して約16.7%短い加工時間を達成した。これらにより、素材選別からデータ化、切断、切削加工、検査までの工程においても各樹脂の特徴を掴んだ的確な加工を施すことができる。

地域貢献 地域との コミュニケーションを大事に

同社では創業以来、会社を中心とした

つながりを大事にしている。地域と共存共栄し、地域社会から信頼されるような会社像を目指している。これは55年もの間、大阪府守口市にお世話になった気持ちで、周りに何かを返していかなければならないという社長以下従業員全体の熱い思いである。

それを象徴するように、小学校の副教材の製作や従業員の大半が地域の祭りや消防団活動に協力している。これからも地域に奉仕していく同社の姿勢は変わらない。

今後の展望 メンテナンス 部品事業に注目

3次元切削加工技術の向上によるメンテナンス部品の短納期化や低コスト化を進める。また、自社の保有している技術を生かして成形業者やメーカーと話を進め、不動金型の削減、過剰在庫の防止の効果があるメンテナンス部品事業の拡大を目指す。さらに、あらゆる最新の技術も見渡して取り入れ、保有している技術と融合させていく。

数、精度、価格、意匠などニーズにあった最適な製造方法で製品を提供できるように仕組みを作り上げていきたいと考えている。同時に、独自製品の開発や海外展開も機を見て進めていきたい。



フライス盤加工の様子



マシニングセンター

当社の歴史



昭和30年に紙やファイバー、塩ビなどの加工業として創業し、その後、ペークライトなどの樹脂の発展とともにあらゆる樹脂の加工を開始しました。昭和36年頃に現在地に移転と同時にフライス盤、旋盤を導入し、昭和60年には株式会社を設立しました。技術の伝承とともに定期的に設備の導入を行っています。

代表取締役社長 藤中 真人さん

<http://www.fujinaka-s.co.jp/>

主な事業内容

プラスチックの切削加工業

主な取引先(納入先)

産業機械・輸送機器・電子部品・医療機器・建材メーカー

- 住所 〒570-0006 守口市八雲西町4-30-20
- TEL 06-6992-2221
- FAX 06-6992-1922
- 創業 昭和30年4月
- 設立 昭和60年9月
- 資本金 1,000万円
- 従業員 9名